

2022年8月20日版

「修正対照表」作成法

(1) 修正対照表を作成する目的：

編集委員会からの指摘に対して、著者がどのように修正を行ったかを明示することにより、査読の効率化を図ること。

(2) 作成法：

修正対照表の最初には、論文番号と論文題を明記する。

修正要求は、編集委員会と個々の査読者が指摘する重要な問題点と軽微な問題点とからなることが多い。編集委員会、査読者A,B,Cへの回答は、「編集委員会より」「A委員より」のように節を分けて、それぞれまとめて行う。指摘された項目すべてに番号をつけ、そのすべてに対して、以下のように回答する（修正する、修正に応じられない理由を提示する、反論するなど）。

●番号と 指摘された問題点

●回答

- ・原則として、修正箇所の多寡にかかわらず、「以下のように修正しました」と述べ、修正前、修正後の表現を(3)のような表で示す（それぞれが、原稿の何ページ何行目から何ページ何行目にあたるのかを明記）。
- ・問題の構成や文章を大幅に変える、分析の方法を変えるなど大幅な修正を行った場合には、修正の方針について述べ、それに対応するのは修正稿中の何ページ何行目から何ページ何行目かを記すだけでよい。また、論文全体にわたって用語を修正する場合には、修正の方針についてのみ述べ、それに対応するページ数と行数を記さなくてよい。
- ・指摘された点について修正する必要がないと考えた場合には、修正していないことを述べ、その論拠を示す。
- ・大幅な修正の結果、指摘された点を含む箇所を修正稿から削除した場合には、どの番号の指摘に対する修正によって削除したかを、回答する。

(3) 用紙ならびに書式：

A4判を用い、以下のように番号や符号を用いて分かりやすく示す。

書式見本

編集委員会より

- ① 表題が内容をよくあらわしていないのではないのでしょうか。

回答：確かに以前のものには誤解を招くおそれがありましたので、表題を以下のように修正しました。また、表題の変更に伴い、本文中の「言語」という記述も、「人工言語」に修正した方がよいと思われる部分については、そのように修正しました。

修正前	修正後
P.1, L.1 言語獲得におけるカラーチップの役割	P.1, L.1 視覚性人工言語の獲得

A 委員より

- ① 本研究の仮説を明確に示してください。

回答：仮説を「問題」の最後の部分（P.5L.11～25）に明記しました。

- ② ○○は、×××と修正すべきではないのでしょうか。

回答：△△△と考えるので、この点は修正しませんでした。

- ③ P.4L.2-5 「しかし、その多くは語彙の獲得や連語の成立についての記述に留まり、学習された視覚性記号の、言語操作の程度やコミュニケーション上の実用性に関する十分な実証的資料（特に実験的なもの）は得られていない」の下線部がわかりにくい。

回答：以下のように修正しました。

修正前	修正後
<p>P.4, L.2-5 しかし、その多くは語彙の獲得や連語の成立についての記述に留まり、<u>学習された視覚性記号の、言語操作の程度やコミュニケーション上の実用性</u>に関する十分な実証的資料（特に実験的なもの）は得られていない</p>	<p>P.5, L.1-3 しかし、その多くは語彙の獲得や連語の成立についての記述に留まり、<u>学習された視覚性記号が実際にどのように使用されているか</u>に関する十分な実証的資料（特に実験的なもの）は得られていない。</p>

④ 結果で、性差を報告していますが、問題で性差に関する仮説と性差が認められるという論拠を明示すべきではないでしょうか。

回答：指摘①を踏まえて、問題で仮説を明記しました（P.5L.11～25）。修正の結果、性差に関する仮説は削除したため、修正稿の結果では性差について報告しないことにいたしました。

B委員より

①

以下続く。_____